

令和5年度 全国学力・学習状況調査(3年生対象)結果について

生駒市立鹿ノ台中学校

【1】生徒質問紙調査から

※課題となる点

- ・学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めること
- ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること
- ・学校の図書室や地域の図書館に行く回数が少ないこと

※良い点

- ・朝食を毎日食べていること
- ・起床時間が一定であること
- ・将来の夢や目標を持っていること
- ・人が困っているときは、進んで助けていること
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うこと
- ・人の役に立つ人間になりたいと思うこと
- ・学校に行くのは楽しいと思うこと
- ・学校の部活動に積極的に参加していること
- ・家庭での学習時間(塾、家庭教師含む)は比較的長く、計画的に学習していること
- ・今住んでいる地域の行事には積極的に参加していること
- ・ICT機器を授業で活用していること
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいること
- ・スピーチ・プレゼンテーションを活用した学習活動をしていること

〈2枚目へ続く〉

【2】教科に関する調査から

国語

全体として・県・全国平均に比べて本校の数値は高い。「インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く」「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経緯に触れながら書く」「現代語で書かれた古典のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」といった「目的に沿って自分の考えをまとめる」という設問において、県・全国平均を上回っている。一方、「語句の意味」「文脈に即した漢字を正しく書くこと」といった「言葉の特徴や使い方に関する事項」、あるいは「情報と情報の関係について理解する」設問がほぼ県・全国平均並みである。基礎・基本の確実な力の定着とともに、「具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解すること」が求められる。

数学

全体として県・全国平均に比べて本校の数値は高い。「数と式」・「空間図形」の設問では、県・全国を上回っている。一方、「関数のグラフを事象に即して解釈すること」や「複数の集団データの分布の傾向を比較してとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」設問において、全国・県の平均値とほぼ同じである。「表・式・グラフのどれをどのように用いたかについて、数学的に説明できる活動」を充実させることが大切である。また、「データを収集・分析し、データの分布の傾向をとらえ、その結果を基に批判的に考察し判断する」という一連の活動の充実が求められる。

英語

全体として県・全国平均に比べて本校の数値は高い。「聞くこと」および「読むこと」における「日常的な話題についての正確な読み取り」「事実と考えを区別した読み取り」は、県・全国を大きく上回っている。一方、「日常的な話題に関する文章の概要をとらえる」設問において、県・全国平均を下回る結果となった。「文章の概要をとらえる」という課題を克服するためには、段落内の文と文の関係を読み取りながら、各段落の主な内容をとらえることが重要である。例えば、短い説明やエッセイや物語などを読んだうえで、時系列に整理する・大まかな内容を把握する・キーワードを拾い、内容を数分の英文にまとめる、などの学習活動に取り組むことが考えられる。

◎ これらの結果をもとに令和6年度の教育活動を検討してまいります。